

問に答ふ

注意

水彩畫に關係あるものに限る。印は答一般に對し利益なきものは載せず

■私は將來水彩畫を以て世に立たんと思ひ居候が美術學校へ入ると研究所へ入ると何れがよろしきや、又油繪と水彩と何れか趣味多きや(文學博士)◎水彩畫専門家になるなら勿論日本水彩畫會研究所に入る方便利ならん、又我々は水彩に多大の趣味を有すればこそ種々盡力してゐるのである■東京發行の新聞紙にて美術上の理論雜誌等又は美術界消息大家先生の御高説等日々掲載するもの二三種承りたく候(MY生)◎日々美術談など載せる新聞紙はなし、比較的多く此方面の記事に富むは、都、讀賣、國民等なり■繪具の堅くなり筆先で容易に溶けぬやうになつたのは如何してよろしきや(二葉)◎取出して茶椀に入れ湯を注ぎて暫時おくと柔らかになるべし、上づみの水を捨て、ガラスの上にて竹ペラにてよく練り、リスリン少許を混じ置くべし、汚れて居る時は取捨るより他に手段なし■我國出版の

讀者の領分

注意

水彩畫に無關係のものは御斷り◎印は編者の答、投書の要旨のみをかゝぐ

■水彩畫初歩第四集、口繪數葉なき水彩畫手引、ヴァイオリン教科書、ハーモニカ獨習書以上金壹圓五十錢に新なる風景畫帖、『みつゑ』二十五、金櫻堂の水彩畫帖と交換されたい(淺草向柳原二ノ一、江波隆太郎)■自筆水彩繪葉書の交換を願ふ但畫面に文字なきを願ふ(廣島市細工町二十(宮田欣司)

編者より

◎海老名氏へ 山の繪は忠實苦心の作なれども、空の描寫不親切なり、又畫面を同一の光りにて畫ぎし爲め散漫の跡あり、位置

も極めて面白からず。水の圖は色彩單調なれど感じはよし、極手前の岸はモット強く畫かれれば繪に遠近見えぬ◎立花氏へ 十和田湖の朝は、前景の水に映する船の影が硬い。秋景は調子が弱い◎小倉氏へ 曙の感じ乏しく、漁舟は波の上に泛ぶといふよりも寧ろ波上に置てあるやうなり、雲の形も實際かは知らぬが面白からず。

新入會者廣告

伊豫國周桑郡吉井村 日野松太郎
小樽區手宮禮町二十一番地 鈴木登
大阪府泉南郡北信達村大字牧野
梶本氏方 箕浦トヨ
福島縣伊達郡東湯野村 堀江繁太郎

以上

十一月 日本水彩畫會

* * * *